

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月13日

【四半期会計期間】 第68期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 蝶理株式会社

【英訳名】 CHORI CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 先 瀨 一 夫

【本店の所在の場所】 大阪市中央区淡路町一丁目7番3号

【電話番号】 (06)6228局5084番

【事務連絡者氏名】 主計部長 野 間 清 史

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南二丁目15番3号

【電話番号】 (03)5781局6201番

【事務連絡者氏名】 経営政策部長 河 村 泰 孝

【縦覧に供する場所】 蝶理株式会社東京本社
(東京都港区港南二丁目15番3号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第67期 第3四半期連結 累計期間	第68期 第3四半期連結 累計期間	第67期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	181,819	182,919	244,286
経常利益	(百万円)	4,170	4,560	5,831
四半期(当期)純利益	(百万円)	2,703	3,569	3,715
四半期包括利益又は 包括利益	(百万円)	4,332	4,239	5,813
純資産額	(百万円)	35,117	39,546	36,417
総資産額	(百万円)	75,494	84,399	78,221
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	110.25	145.59	151.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	46.38	46.78	46.42

回次		第67期 第3四半期連結 会計期間	第68期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	42.63	42.30

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載をしておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間における、当社及びグループ企業において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(繊維事業)

第1四半期連結会計期間において、株式会社東京白ゆり會の全株式の取得に伴い、株式会社東京白ゆり會を連結子会社にしております。

(化学品事業)

当第3四半期連結会計期間において、重慶大足紅蝶⁹³業有限公司の出資金の一部譲渡に伴い、重慶大足紅蝶⁹³業有限公司を持分法適用の範囲から除外しております。

(その他)

当第3四半期連結会計期間において、蝶理イメージング株式会社の全株式の譲渡に伴い、蝶理イメージング株式会社を連結の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益に支えられ緩やかな回復傾向が続いているものの、消費税増税後の個人消費の回復遅れに加え、為替相場や原油価格の急激な変動の収益に与える影響が懸念されます。国際的には米国経済は好調ながら、欧州経済の動向に注視が必要であり、加えて、新興国経済の成長減速や地政学的リスクの不安感もあり先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、平成26年4月23日に発表した中期経営計画「躍進2016」の諸施策を推進しております。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比0.6%増の1,829億19百万円、採算性向上を主因として、営業利益は、前年同期比12.0%増の43億16百万円、経常利益は、前年同期比9.4%増の45億60百万円、税金等調整前四半期純利益は、前年同期比2.4%増の42億78百万円となりました。また、四半期純利益は、繰延税金資産の計上により前年同期比32.0%増の35億69百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

繊維事業

当セグメントにおきましては、売上高は前年並みの827億62百万円を確保しましたが、不断の事業見直しに伴う一過性損失の発生もあり、セグメント利益（税金等調整前四半期純利益）は前年同期比23.2%減の18億35百万円となりました。

化学品事業

当セグメントにおきましては、円安に伴う輸出拡大が牽引し、売上高は前年同期比9.0%増の681億81百万円となり、ファインケミカル関連が堅調に推移し、セグメント利益（税金等調整前四半期純利益）は前年同期比28.4%増の22億5百万円となりました。

機械事業

当セグメントにおきましては、中南米向け車輛事業の取引形態変更により、売上高は前年同期比12.1%減の316億68百万円となりましたが、実質取扱スケールには影響がなく、セグメント利益（税金等調整前四半期純利益）は前年同期比435.2%増の2億89百万円となりました。

その他

当セグメントにおきましては、売上高は前年同期比17.5%減の3億7百万円となりました。セグメント損失（税金等調整前四半期純損失）は、事業・資産の入替を目的とした関係会社の株式譲渡に伴う損失発生により、51百万円（前年同期は16百万円のセグメント利益（税金等調整前四半期純利益））となりました。

なお、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおり、従来、セグメント利益又は損失については、営業利益を基礎に記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間より税金等調整前四半期純利益を基礎として記載する方法に変更しております。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、843億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ61億78百万円増加しました。これは主に商品及び製品が25億15百万円増加、受取手形及び売掛金が23億16百万円増加、有形固定資産が7億11百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、448億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ30億49百万円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金が39億58百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、395億46百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億29百万円増加しました。これは主に四半期純利益の計上により35億69百万円増加、配当の支払により8億9百万円減少、その他有価証券評価差額金が4億81百万円増加したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は42百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当連結会社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、主要な設備の新設は、東京本社移転に関する固定資産の取得275百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	55,000,000
計	55,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,303,478	25,303,478	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	25,303,478	25,303,478		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		25,303,478		6,800		1,700

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区 分	株式数（株）	議決権の数（個）	内 容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 784,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,472,900	244,729	
単元未満株式	普通株式 45,878		一単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	25,303,478		
総株主の議決権		244,729	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、次のものが含まれております。

イ) 証券保管振替機構名義の株式 800株(議決権8個)
ロ) 株主名簿上は当社名義だが実質的に所有していない株式 100株(議決権1個)

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、次の株式が含まれております。

自己保有株式 蝶理株式会社 14株

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 蝶理株式会社	大阪市中央区淡路町 一丁目7番3号	784,700		784,700	3.10
計		784,700		784,700	3.10

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が100株(議決権1個)あります。
なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含めております。

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,821	5,855
関係会社預け金	¹ 4,000	¹ 3,000
受取手形及び売掛金	42,328	⁶ 44,644
商品及び製品	10,222	12,737
仕掛品	107	27
原材料及び貯蔵品	49	16
未着商品	423	133
繰延税金資産	370	349
その他	3,834	5,220
貸倒引当金	38	109
流動資産合計	67,118	71,876
固定資産		
有形固定資産	744	1,455
無形固定資産		
のれん	715	562
その他	141	203
無形固定資産合計	857	765
投資その他の資産	² 9,500	² 10,301
固定資産合計	11,102	12,522
資産合計	78,221	84,399
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,324	⁶ 36,282
短期借入金	949	1,002
未払法人税等	1,058	510
賞与引当金	592	410
返品調整引当金	2	2
関係会社整理損失引当金	42	231
その他	4,535	4,174
流動負債合計	39,504	42,614
固定負債		
社債	-	25
長期借入金	52	48
繰延税金負債	3	43
退職給付に係る負債	2,076	2,021
負ののれん	47	-
その他	119	99
固定負債合計	2,298	2,238
負債合計	41,803	44,852

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,800	6,800
資本剰余金	1,700	1,700
利益剰余金	27,671	30,175
自己株式	780	782
株主資本合計	35,391	37,893
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	458	939
繰延ヘッジ損益	22	54
為替換算調整勘定	655	779
退職給付に係る調整累計額	169	79
その他の包括利益累計額合計	921	1,585
少数株主持分	104	68
純資産合計	36,417	39,546
負債純資産合計	78,221	84,399

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	181,819	182,919
売上原価	166,136	166,628
売上総利益	15,683	16,291
販売費及び一般管理費	11,830	11,974
営業利益	3,852	4,316
営業外収益		
受取利息	43	39
受取配当金	164	132
持分法による投資利益	94	90
負ののれん償却額	47	47
為替差益	39	31
債務勘定整理益	71	110
雑収入	118	128
営業外収益合計	578	580
営業外費用		
支払利息	44	36
手形売却損	132	158
売上割引	59	49
雑支出	23	91
営業外費用合計	260	336
経常利益	4,170	4,560
特別利益		
関係会社株式売却益	-	198
負ののれん発生益	-	113
投資有価証券売却益	128	33
固定資産売却益	1	2
関係会社清算益	12	-
ゴルフ会員権売却益	9	-
特別利益合計	152	347
特別損失		
関係会社整理損	-	370
東京本社移転費用	-	140
関係会社株式売却損	-	85
固定資産処分損	21	32
投資有価証券売却損	4	0
投資有価証券評価損	85	-
債権売却損	34	-
特別損失合計	146	629
税金等調整前四半期純利益	4,176	4,278
法人税、住民税及び事業税	1,389	1,501
法人税等調整額	80	796
法人税等合計	1,469	704
少数株主損益調整前四半期純利益	2,706	3,574
少数株主利益	2	4
四半期純利益	2,703	3,569

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,706	3,574
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	433	481
繰延ヘッジ損益	41	31
為替換算調整勘定	837	257
退職給付に係る調整額	-	90
持分法適用会社に対する持分相当額	312	132
その他の包括利益合計	1,626	665
四半期包括利益	4,332	4,239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,328	4,233
少数株主に係る四半期包括利益	4	6

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、株式会社東京白ゆり會の全株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。また、当第3四半期連結会計期間より、蝶理イメージング株式会社の全株式を譲渡したことに伴い、連結の範囲から除外しております。

持分法適用の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間より、重慶大足紅蝶⁹³業有限公司の出資金を一部譲渡したことに伴い、持分法適用の範囲から除外しております。

(会計方針の変更等)

会計方針の変更

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更並びに割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が33百万円増加し、利益剰余金が21百万円減少しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 関係会社預け金は、東レグループ・キャッシュマネジメントシステムによる東レ株式会社への預け金であります。
- 2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
投資その他の資産	435百万円	473百万円

- 3 手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
輸出手形割引高	626百万円	2,146百万円

4 手形裏書高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形裏書譲渡高	297百万円	284百万円

5 債権流動化に伴う買戻義務

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
債権流動化に伴う買戻義務	3,448百万円	2,073百万円

6 四半期連結会計期間末日満期手形の処理

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理は、手形交換日をもって決済処理する方法を採用しております。
なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	百万円	92百万円
支払手形	百万円	859百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	160百万円	212百万円
のれんの償却額	134百万円	123百万円
負ののれん償却額	47百万円	47百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月14日 取締役会	普通株式	588	24.00	平成25年3月31日	平成25年6月14日	利益剰余金

- 2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月13日 取締役会	普通株式	809	33.00	平成26年3月31日	平成26年6月13日	利益剰余金

- 2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維事業	化学品事業	機械事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	82,875	62,560	36,010	181,446	372	181,819		181,819
セグメント間の内部 売上高又は振替高					349	349	349	
計	82,875	62,560	36,010	181,446	722	182,169	349	181,819
セグメント利益	2,388	1,717	54	4,159	16	4,176		4,176

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報・通信機器の取扱及び各種役務提供等を含んでおります。

2 報告セグメント及びその他の事業セグメントのセグメント利益の合計は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維事業	化学品事業	機械事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	82,762	68,181	31,668	182,612	307	182,919		182,919
セグメント間の内部 売上高又は振替高					303	303	303	
計	82,762	68,181	31,668	182,612	611	183,223	303	182,919
セグメント利益又は 損失()	1,835	2,205	289	4,330	51	4,278		4,278

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報・通信機器の取扱及び各種役務提供等を含んでおります。

2 報告セグメント及びその他の事業セグメントのセグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と一致しております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントごとの利益又は損失に関する事項)

当社グループは、平成26年4月23日に連結経営基盤強化、人的基盤強化、新規開発・M&Aを基本戦略とする中期経営計画「躍進2016」を公表いたしました。これに伴い、業績評価対象の利益を新規開発・M&Aを通じた事業範囲の拡大、事業の見直し、入れ替え等により発生する損益を加味した利益に変更することいたしました。

従来、セグメント利益又は損失については、営業利益を基礎に記載し、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っておりましたが、この変更により、第1四半期連結会計期間より税金等調整前四半期純利益を基礎に記載し、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と調整を行うこととしております。

なお、前第3四半期連結累計期間に係る「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」は、変更後の方法により記載しております。

また、従来開示しておりました営業利益を基礎としたセグメント利益の金額は、下記のとおりとなっております。

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	繊維事業	化学品事業	機械事業	計		
営業利益						
前第3四半期連結累計期間 (平成25年4月1日～平成25年12月31日)	1,947	1,765	117	3,830	22	3,852
当第3四半期連結累計期間 (平成26年4月1日～平成26年12月31日)	2,107	1,958	218	4,285	31	4,316

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (会計方針の変更等)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

当該変更による各報告セグメント等への影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	110円25銭	145円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	2,703	3,569
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	2,703	3,569
普通株式の期中平均株式数(千株)	24,521	24,518

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

特記すべき事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月6日

蝶理株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 黒 訓 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 田 信 之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている蝶理株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、蝶理株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。